

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 23 年 12 月 1 日 (木) 10:22 ~ 11:29

場 所 合同庁舎 4 号館第 3 会議室

出席者 大串政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、大西議員、
泉統括官、梶田審議官、吉川審議官、大石審議官

議事概要

議題 1 . 科学技術イノベーション政策推進のための有識者研究会 (第 3 回) の報告

< 須藤参事官説明 >

奥村議員 今の未定稿という紙を拝見して、一つやはり抜けていると思われる点を一点指摘します。今の総合科学技術体制が約 10 年前にできて、そのうちの半分ぐらい私はここに在職しています。それでつくづく思っていますのは、こういう最も大枠の外形的な仕組みはもちろん重要なのですが、同時に施策や研究の実行段階で仕組みがないために実行が非常に不徹底である点です。したがって効率が悪い、効果も少ないとの指摘がされるのではないかと。ですから、この実行をどうするのかというのは、私もイギリスとかアメリカの政策運用の仕組みを見ているのですが、両国との非常に大きな違いは、実行段階でそれなりの仕組みができており、この仕組みの運用を主に行政部門が担当しているわけです。その仕組みがないことが、効果的な政策の運用に関して非常に問題を大きくしているので、ここについてどういうふうにかこの検討会ではとらえていくのか。

前回、第 2 回目のときに呼んでいただいたので、私のメモ書きにそのことを若干触れていますけれども、ご案内のように、いろいろな大枠の仕組みを欧米から取り入れたわけですね、ポストドク制度にしる、何にしる、それが中途半端な格好で実行されているというところに大きな問題点があるのではないかと。そのあたりを改善することで、私は日本の力というのはもっと上昇気流に乗せられるのではないかと考えていますので、その実行段階をきちっと回す仕組みを含めて全体の仕組みをどうするのかということとをぜひ、ご検討いただけたらありがたいと思っております。

大西議員 私、ここのメンバーでもあるのですが、感じているのは、今、奥村議員のおっしゃる点とも関係すると思うのですが、議論の展開が、ある種、結論ありきといいますか、結論が見えているので始まっているところもあって、内在的な問題をきちんと整理して、それを解決するためにどういう結論に到達したらいいのかというふうにか、どうも論理的になっていない点があると思うのですよね。

ですから、今おっしゃったようなことが漏れているというのは、まさに現状で、これまでやってきた政策が、どれほど効果があつて、どこが問題かというのをきちんと整理して、それをどう改善していけばいいのかという組み立てになれば、今のようなことは

ないと思うのですが、ここでも一番最初の基本姿勢・認識がちょっとあいまいだという指摘がありますけれども、私もこういう指摘をしたのですが、ほかの方もこういう指摘をして、本来これが出発点でこれを解決するためにどうするかというふうに以降が展開していくのですけれども、何となく、政府なり民主党から改革案が出てゴールが何となく見えているというところから出発するので、そこにいかにたどり着くかということで、現状分析なり、きちんとした問題点の整理が少し鈍いという感じを持っています。だから、やっぱりそのところの合意をきちんとやっていかないと、現にある問題の解決につながらなくて、同じような問題がまた再生産されるというおそれかあるのではないかと思います。

白石議員 私もこの前、第2回目のときに呼んでいただいて、言うべきことは全部言ったつもりでありますけれども、基本的に私も奥村議員と全く同じ考えで、これを見ますと、余り野心的に絵にかいたもちをつくって、それでいいという感じではどうもなくて、どちらかというインクリメンタルに改善していこうという方向にはなっているので、これはこれで結構だと思いますが、一番重要なのは、組織いじりではなくて、どうやって運用していくのかと、そこがもう決定的に大事なので、そこに対してやっぱり少し配慮を払わないと、いくら入れ物をつくって結局また数年すると、やっぱり司令塔ができていないということに。私はその批判自身もちょっと、実はアンフェアだと思っておりますけれども、奥村先生と同じ考えなので、申し上げたいと思います。

青木議員 今、大西先生が政策評価のことをおっしゃったのですけれども、政策評価が十分に行われていないと。それと最後の司令塔機能及びシンクタンクも一緒につくるということが書いてありますけれども、そこがまさに分裂、今、総合科学技術会議が司令塔機能をしていないことの一部は政策評価もそれぞれの省庁の政策評価に頼っていてちゃんとできていないので、司令塔機能をちゃんとつくるというのは、政策評価を独自にできる機関をちゃんとつくるということも同じぐらい重要なことだと思います。それを指摘したいと思います。

大串政務官 今、各先生から意見があった点は、それはごもっともだと思います。私もこの会議に出ているのですけれども、これは組織を変えるための会ではなくて、よりよい実効性のある仕組みをつくるための、組織というよりは仕組みをつくるためのイニシアチブでありますので、ぜひ、お知恵をいただきたいと思います。

というのは、私もこの世界ですっとやっているのですけれども、問題点は皆さん一緒に把握しているのだと思いますね。すなわち、選択と集中を、イニシアチブをもってどうやって戦略的に果たしていくかと、問題意識はみんな一緒に、じゃ、そこにどう到達するかが問題なので、今回、いわゆる仕分けでも科学技術は挙がっています。今回は政策提言的仕分けという、政策仕分けということなので、行政刷新担当の政務と私、話したのですけれども、行政刷新側が思っていることも私たちが持っている問題意識と同じなのです。いかに重点化、集約化、戦略化を図っていくかと。

じゃ、そうならないじゃないかということをお願いだけでは全然解決にならないので、じゃ、どうしたらいいのですかという提言もくださいということを行政刷新側

にも私は申し上げています。ですので、知恵をいただけたらと思う次第でございます。

行政上の組織のあり方、いろいろな知恵はあり得ると思うものですから、例えば提言機能なのか、勧告機能なのか、強制機能なのか、その辺は知恵もいろいろあると思うのです。ですから、いろいろな、私たちもいろいろ考えますので、アドバイスをいただけたらと思います。よろしく願い申し上げます。

相澤議員 前回の第2回のときに総合科学技術会議の議員がそれぞれの角度から、ただいまのようなところを明確に指摘しておりますので、それが十分に反映できることを願わんということに尽きるのですけれども、この次の会が基本骨格を示すということなので、今のような点が本当に盛り込まれるのかどうかというのが、今日もご発言があったように大変心配される場所なので、これは本当に願わざるを得ないんですけれども、ぜひそのところは改めて意識して、準備される側、事務局としてもそこを十分に強調していただいて、さらにこの会議への提示の仕方も、そここのところに問題意識があるということを繰り返し言っていたかかないと、その先に行かないんだと思いますので、どうぞよろしく願います。

それでは、ただいまの件は以上とさせていただきます。

議題2 . 総合科学技術会議 意見具申「平成24年度科学技術関係予算の編成に向けて」(案)について

(来年度予算に関する内容であるため非公開)

(以上)